

達成度：H26.3.31 の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

財政課の目標（平成 25 年度）自己評価書

財政課長 京増 孝一

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 行財政改革の推進</p> <p>(1) 財政健全化の推進</p> <p>財政の健全化を図ることが重要であることから、全体事業を見直しながら、簡素で効率の良い予算執行を指導します。</p> <p>予算編成に当たっては、酒々井町財政健全化緊急対策計画を見直し、現状を把握しながら歳出の削減と歳入の確保に努め、財政の健全化に努めます。</p> <p>(2) 新地方公会計制度への取組</p> <p>自治体の財政状況を総合的かつ長期的に把握するため、新たな地方公会計制度によるバランスシートを主とした財務諸表の整備を進めます。</p> <p>(3) ファシリティマネジメントの推進</p> <p>町有施設の半数以上が建設後 30 年以上を経過しており、これらの施設を長期的・総合的に維持・整備する必要があることから、施設運営費の最小化、施設利用効率の最大化・変化への柔軟な対応を図るため、健全な行政運営と住民サービス向上を図る方策として、これら公共施設を経営的な視点に立った管理運営に資することを目的としたファシリティマネジメントを推進します。</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>財政健全化については、酒々井町財政健全化緊急対策計画の見直しや予算編成並びに予算執行を通して全課にわたり削減や節約をすることができました。また、国による「経済対策」や「緊急雇用対策」などによる交付金の活用とともに交付税措置のある起債を利用することで一般財源の支出を抑えることができました。</p> <p>平成 12 年度決算から作成していた「総務省方式」に変え、平成 22 年度決算からは、新たな地方会計制度に対応した「総務省方式改定モデル」による財務諸表 4 表中の 2 表分を作成したが、平成 24 年度決算分については、本年 5 月を目途に作成中です。</p> <p>施設の保全に関する計画の策定に向けて、基礎データの整理に取り組むとともに、役場庁舎の環境改善や維持管理コストの削減を図るための検討を行いました。</p>

<p>(4) 契約制度改革の推進</p> <p>入札及び契約については、法令等に基づき適正に行っていますが、引き続き入札手続きの透明・公平性の確保、競争性の向上を図るため、電子入札の充実など推進を図ってまいります。</p> <p>2 チャレンジ目標</p> <p>健全な財政運営を継続的に行うためには、予算を適正に執行すると共に、職員が町民ニーズを的確に見極め、新たな発想により従来予算枠内で住民サービスの向上に繋げるよう指導を図り、財政の健全化に向けてさらに全職員が一丸となって取り組んでまいります。</p> <p>さらに、財政調整基金等各種基金への積み立てを積極的に行い、将来にわたって増加する行政需要に対応する財源を確保することとします。</p>	<p>4</p> <p>4</p>	<p>入札手続きの透明・公平性の確保、競争性の向上、入札参加者の負担軽減及び入札契約事務の効率化を図るため、電子入札の充実を図りました。</p> <p>予算編成時の説明会等を通して、職員に対し、予算の適正な執行の徹底及び町民ニーズへの配慮等指導したことにより、財政健全化に向け職員一丸となって取り組むことができました。また、基金への積立については、将来に向けた行政需要に対応するため、財政調整基金の他、社会資本等整備基金、農業基盤整備事業基金、減債基金及び地域福祉基金への積立を行いました。</p>
--	-------------------	---